

色彩に関する言語研究

山 口 さずか

1. はじめに

私達が通常見ている色彩とは、一連の光の繋がりである。それらは色名を与えられることにより、初めてある一つのカテゴリーとして認識されるようになる。そして、色名は民族や社会によって分類の仕方が異なり、様々な名称がつけられている。日本には伝統的に数多くの色名が存在しており、本稿では色彩語、特に「紫」に分類された色名を中心に様々な角度から考察する。

2. 日本の色彩について

2.1. 色彩の定義

日本の色彩が豊富なように、「色」という言葉は英語の「color」以上に多義的である。日本語の「色」という言葉を辞書で引いてみると、どの辞書も「色合い、肌の色、特徴」という意味があり、それに類似している英語の「color」の定義は、「色彩、皮膚の色、絵具、表面上の根拠」などがあげられる。しかし、英語の「color」にはない日本語の「色」の定義がある。それは「男女の恋愛」である。「十人十色」という言葉からもわかるように、日本人は、昔から視覚的なものだけでなく人間の心の奥に秘めた感情や性格さえも「色」に例えているのである。

2.2. 色名の四つの分類

福田(2005)によると、日本語における色名は主に、二次的色彩語、技術的色彩名、文学的色彩名、商業的色彩名の4つに分類されている。まず、二次的色彩語とは、基本色彩語に「明るい」「あざやかな」「くすんだ」「暗い」といった修飾語をつけても表現できない場合に、「空色」や「土色」など自然物の名称から取って色名に取り入れられたものである。「空色」といっても、実際には様々な空模様があるはずだが、たいていはどの言語でも「晴天の青空の色」の様な明るい青色で表現される。

次に、技術的色名とは、着色に用いた染料や顔料などの名前がそのまま色名になったものである。人類最古の植物染料の藍やインディゴ、朱色や黄土色などが挙げられる。また、群青色は瑠璃を原料として作られた青色顔料に由来している。

日本では、十、十一世紀頃の平安時代に、多くの歌人や作家たちによって自然の風物からとられた美しい文学的色名が生まれた。その色そのものを表すというよりも、むしろ色の特徴を強調したり美化したりするためにつけられた。近世以降には、文明技術が発達し大衆的な需要を生み出すために商業的色名が多く作られていった。また、ただ美化するだけでなく、語呂や縁起がいいなどの条件で色名が選ばれることも多くなった。

近江(2008)は次のような四つのカテゴリーに分類している。

1. 自然界に見られる様々な対象の色に取材し、かつその物を使って発色してはいない色名。
2. 対象物によって発色した色名。発色材の名前から取られたものと顔料名がそのままつけられたもの。後者は塗料などの名称によく使われる。
3. 発色技術、工程に由来する色名
4. 赤、黄、白、黒などその色自体を表す色名

3. 紫についての考察

3.1. 日本における紫

『大辞林・第二版(三省堂)』によると、「紫」は色名のほかにも「醬油」の異称、女房詞で「イワシ」をさす隠語となっている。「紫」という色名は、漢の時代に苳草しろうと呼ばれていた多年草から染料をとっていたためにその糸の色を表すこの名前が付けられた。和名の「むらさき」の語源は、この色を伝えた朝鮮半島の言語で「ポラサキ」という言葉に由来しているという。日本には紫の色数が非常に豊富である。また「こき色」「うす色」のように、ただ「色」というだけで平安時代の貴族は「紫」をさしていた。もともと奈良時代から「こき色」は「深紫」,「うす色」は「赤紫」と書かれ,「深紫」はその色を与えられた身分でしか使うことのできない「禁色」とされていた(長崎2006)。古代中国でも紫は天帝の信仰を表す禁色とされ,皇居のことを「紫禁」,天子の正殿を「紫宸殿」と呼んだ(福田2005)。平安時代の貴族は,紫の色を「懐かしさを感じさせる色」ととらえ,「ゆかりの色」と呼んだ。それは紫根の色が和紙に移るように,自分の恋い慕う気持ちを相手に移したい,という思いがあったことによる(中江2007)。

3.2. 日本伝統色名

日本では古くから数多くの伝統色名が存在することは前述の通りであるが、その多くは一部の染織物の分野を除き、現代では慣用的に使われていない。また、伝統色名がどの色をさすかということは、染織物や出土品の年月の経過による劣化から必ずしも正確には読み取ることができないかもしれない(長崎2006)。しかし、残された書物や色名事典に記された伝統色名を調べることにより、歴史の背景や当時の文化を読みとることができるであろう。また、日本で広く使われている JIS 一般色名と英名とを比べることにより、より詳しい色調や、それらに生じるずれを見ることができる。

4. 「青」と「青紫」, 「紫」と「blue」「violet」「purple」

表1は、日本の伝統色名と JIS の一般色名, 通用度の高い英名を対応させた表である。

表1 伝統色名、JIS 色名、英色名対応表

	伝統色名	JIS一般色名	英色名
	群青色	青みのうすい青紫	forget-me-not blue
	紺	暗い青紫	purple navy
	<small>かちいろ</small> 褐色	ごく暗い青紫	indigo
	瑠璃色	さえた青紫	cobalt blue
	紺青色	さえた青紫	ultramarine blue
	瑠璃紺	ふかい青紫	royal blue

	べにみどり 紅 碧		紫みのうすい青紫	salvia blue
	紺桔梗		紫みのふかい青紫	Victoria violet
	藤鼠		紫みのにぶい青紫	lavender gray
	紅掛花色		紫みのにぶい青紫	gentian blue
	藤色		紫みのうすい青紫	lavender
	二藍		紫みのにぶい青紫	aster
	藤紫（紫藤）		青みのあざやかな紫	wisteria violet
	桔梗色		青みのにぶい紫	blue violet
	紫苑色		青みのうすい紫	heliotrope
	けしむらさき 減 紫		青みの暗い灰 紫	raisin
	紫紺		青みのごく暗い紫	blackish purple

	深紫	青みのふかい紫	deep royal purple
	薄色	うすい紫	pale lilac
	はしたいろ 半色	あざやかな紫	crocus
	菫色	にぶい紫	mauve
	紫	ふかい紫	royal purple
	黒紅（黒紅梅）	ごく暗い紫	dusky purple
	菖蒲色	赤みのさえた紫	iris
	紅藤	赤みのうすい紫	lilac
	かきつばた 杜若	(江戸紫) 赤みのふかい紫	amethyst
	鳩羽鼠	赤みの灰 紫	lilac hazy
	葡萄鼠	赤みの灰 紫	plum purple

	えびぞめ 蒲萄	赤みのふかい紫	amethyst mauve
	藤煤竹	赤みの暗 い灰紫	prune
	牡丹	あざやかな赤紫	fuchsia purple
	梅紫	にぶい赤紫	amaranth purple
	似せ紫	暗い赤紫	plum
	紫鳶	暗い灰赤紫	Indian purple
	蘇芳	赤みのふかい赤紫	raspberry red
	桑染	赤みの暗い赤紫	mulberry
	紅消鼠	赤みの暗い灰 赤紫	blackberry

長崎盛輝『新版日本の伝統色-その色名と色調-』（青幻舎）を参照

表1であげた伝統色名，JIS 一般色名，英色名の三種類をそれぞれ色別に分類し，色名レベルによってどのような違いがあるかを考察した。JIS では群青から二藍までの色を「青紫」，藤紫から紅消鼠を「紫」，そして「牡丹」から「紅消鼠」までを「赤紫」と表現している。まず，伝統色名は，ほとんどの色名が固有色名のために，色名に含まれる基

本色名の「青」「紺」「藍」「黒」「紫」「鼠」「紅」を判断の基準とした。JIS 一般色名、英色名と比べて最もばらつきがありカテゴリー分けの判断は容易ではなかった。

英色名では、日本語で「青紫」の範囲の多くを「blue」と位置付けていて、「紅掛花色」あたりまでは、blue のカテゴリーになっている。「紺桔梗」から「violet」という色名が登場して来るが、その周辺の色名はほとんどが固有色名で占めているため、violet のカテゴリーはやや不明瞭である。そして、「紫紺」から「purple」が使われるようになり、「蘇芳」で「red」の色名が登場する。これらを見ると、おおよそ blue → violet → purple の順に青から赤みが増していき、最終的に red に到達していくが、日本語の範囲との間にかなりずれがあることが分かる。その一つとして挙げられるのが、JIS における「青紫」の半数近くが「blue」でカバーされていることである。「青紫」は「violet」だと一般的に考えられているにも関わらず、表 1 の中でこの二つの色名が重なり合うのは「Victoria violet」のみだけで、「wisteria violet」からは JIS では紫の範囲になってしまう。また、violet の周辺には aster や heliotrope などの植物の固有色名が並び、JIS 一般色名の「紫」の範囲の中で植物の固有色の占める割合が大きいのを考えると、violet もその一つと捉えるべきかもしれない。しかし一方で、violet は虹の一色として広く基本色彩語として認知されているため、violet は blue や purple よりはカバーされる範囲が狭いながらも、固有色名と基本色名の中間と言えるのではないかと考えられる。

5. 色名調査

5.1. 目的

本章では、伝統色を参考に色名調査を行い、現代の日本人や、英語母語話者にはどのように表現されるのか、また、両者の間での表現の違いがあるとすれば、それはどのようなものであるかを考察する。

5.2. 調査方法

10代から60代までの日本人37人、主にアメリカ在住の英語母語話者9人の計46人に調査を行った。使用色は長崎(2006)の伝統色を参考に、計35色の紫のバリエーションを取り上げ、

- ①明度・彩度を表す形容詞
- ②色相に関する修飾語
- ③基本色彩語

の3つを指定した選択肢の中からそれぞれ組み合わせてその色を表現してもらおう。
 実際の色名は伏せて色だけを見て選んでもらった。

5.3. 調査結果

表2はアンケート結果から、上位3つ選択肢の組み合わせを集計したものである。

表2 高頻度の組み合わせ

色	日本語	英語	JIS一般色名
紺	ふかい -- 青 - 16 (43%) 暗い 青みの 黒 - 2 (5%) ふかい 紫みの 青 - 2 (5%)	Deep -- Blue - 3 (33%) Dark -- Blue - 2 (22%) Deep Bluish Gray - 1 (11%)	暗い青紫
褐色	ふかい -- 青 - 8 (22%) にぶい -- 青 - 3 (8%) 暗い 青みの 黒 - 2 (5%)	Dark -- Blue - 5 (56%) Deep -- Blue - 1 (11%) Deep Bluish Gray - 1 (11%)	ごく暗い青紫
瑠璃色	あざやかな -- 青 - 11 (30%) さえた -- 青 - 7 (19%) あざやかな 緑みの 青 - 3 (8%)	Light -- Blue - 2 (22%) Bright -- Blue - 1 (11%) Clear -- Blue - 1 (11%)	さえた青紫
紺青色	うすい -- 青 - 4 (11%) にぶい 緑みの 青 - 4 (11%) ふかい -- 青 - 4 (11%)	Dim -- Blue - 5 (56%) Deep Greenish Blue - 2 (22%) Deep -- Blue - 0 (0%)	さえた青紫
瑠璃紺	にぶい -- 青 - 8 (22%) にぶい 緑みの 青 - 5 (14%) 暗い 緑みの 青 - 4 (11%)	Dim -- Blue - 4 (44%) Dim Greenish Blue - 2 (22%) Clear Greenish Blue - 1 (11%)	ふかい青紫
紅碧	うすい -- 青 - 13 (35%) うすい 紫みの 青 - 4 (11%) うすい 青みの 灰 - 4 (11%)	Light Bluish Gray - 2 (22%) Clear -- Blue - 1 (11%) Light Bluish Purple - 1 (11%)	紫みのうすい青紫
紺梗紺	暗い 紫みの 青 - 4 (11%) ふかい 青みの 青紫 - 4 (11%) あざやかな -- 青 - 3 (8%)	Deep -- Blue - 2 (22%) Dark Purplish Blue - 1 (11%) Deep -- Purple - 1 (11%)	紫みのふかい青紫
藤鼠	にぶい -- 青 - 5 (14%) うすい 紫みの 青紫 - 3 (8%) にぶい 紫みの 青 - 3 (8%)	Dim -- Blue - 2 (22%) Dim Bluish Violet - 1 (11%) Bright -- Purple - 1 (11%)	紫みのにぶい青紫
紅掛花色	さえた -- 紫 - 2 (5%) にぶい -- 青 - 2 (5%) あざやかな 青みの 青紫-2(5%)	Dim -- Purple - 1 (11%) Bright -- Purple - 1 (11%) Light -- Purple - 1 (11%)	紫みのにぶい青紫

藤色	うすい -- 紫 - 9 (24%) うすい 紫みの 青 - 6 (16%) うすい -- 青 - 4 (11%)	Light Purplish Gray - 2 (22%) Light Bluish Violet - 1 (11%) Light Purplish -- - 1 (11%)	紫みのうすい青紫
二藍	にぶい 紫みの 青 - 4 (11%) にぶい -- 紫 - 3 (8%) にぶい 紫みの 青紫 - 3 (8%)	Dark Bluish Purple - 1 (11%) Dim -- Purple - 1 (11%) Dim Purplish Gray - 1 (11%)	紫みのにぶい青紫
藤紫	にぶい 赤みの 紫 - 4 (11%) あざやかな -- 紫 - 3 (8%) さえた -- 紫 - 3 (8%)	Dim -- Purple - 2 (22%) Bright -- Purple - 1 (11%) Light Purplish Violet - 1 (11%)	青みのあざやかな紫
桔梗色	にぶい 青みの 紫 - 4 (11%) ふかい -- 紫 - 3 (8%) うすい 青みの 紫 - 3 (8%)	Dim -- Purple - 2 (22%) Dark -- Purple - 2 (22%) Deep Bluish Purple - 2 (22%)	青みのにぶい紫
紫苑色	うすい 青みの 青紫 - 4 (11%) うすい 赤みの 紫 - 4 (11%) うすい -- 紫 - 3 (8%)	Bright -- Purple - 2 (22%) Light -- Purple - 1 (11%) Light Purplish Violet - 1 (11%)	青みのうすい紫
減紫	暗い -- 紫 - 7 (19%) 暗い 紫みの 黒 - 5 (14%) 暗い 青みの 青紫 - 3 (8%)	Dark Purplish Black - 2 (22%) Dark -- Purple - 2 (22%) Dark Purplish Blue - 1 (11%)	青みの暗い灰紫
紫紺	ふかい -- 紫 - 6 (16%) 暗い -- 紫 - 4 (11%) 暗い 紫みの 黒 - 2 (5%)	Dark -- Purple - 2 (22%) Dark Reddish Purple - 1 (11%) Dark Purplish Gray - 1 (11%)	青みのごく暗い紫
深紫	ふかい -- 紫 - 5 (14%) ふかい 赤みの 紫 - 5 (14%) さえた -- 紫 - 4 (11%)	Dark -- Purple - 2 (22%) Deep Reddish Purple - 1 (11%) Dim Purplish -- - 1 (11%)	青みのふかい紫
薄色	うすい -- 紫 - 18 (49%) うすい 紫みの 白 - 5 (14%) うすい 青みの 紫 - 5 (14%)	Light Reddish Purple - 2 (22%) Light Purplish Violet - 2 (22%) Bright Purplish Violet-1 (11%)	うすい紫
半色	うすい 赤みの 紫 - 5 (14%) あざやかな 赤みの 紫 - 3 (8%) さえた -- 紫 - 3 (8%)	Light Purplish Violet - 2 (22%) Light -- Purple - 2 (22%) Dim Purplish Violet - 1 (11%)	あざやかな紫
堇色	あざやかな -- 紫 - 9 (24%) あざやかな 青みの 紫 - 5(14%) さえた -- 紫 - 3 (8%)	Deep -- Purple - 3 (33%) Bright -- Purple - 2 (22%) Bright Purplish -- - 1 (11%)	にぶい紫
紫	ふかい -- 紫 - 4 (11%) ふかい 青みの 青紫 - 3 (8%) ふかい 青みの 紫 - 3 (8%)	Deep -- Purple - 5 (56%) Deep Purplish -- - 1 (11%) Clear -- Purple - 1 (11%)	ふかい紫

黒紅	暗い 赤みの 紫 - 5 (14%) 暗い -- 紫 - 3 (8%) 暗い 紫みの 黒 - 3 (8%)	Dark -- Purple - 1 (11%) Dark Reddish Purple - 1 (11%) Dark Purplish -- - 1 (11%)	ごく暗い紫
菖蒲色	あざやかな -- 紫 - 14 (38%) あざやかな 赤みの 紫 - 6(16%) にぶい -- 紫 - 3 (8%)	Deep -- Purple - 3 (33%) Bright -- Purple - 2 (22%) Clear Purplish Violet - 2 (22%)	赤みのさえた紫
紅藤	うすい -- 紫 - 11 (30%) うすい 赤みの 紫 - 8 (22%) うすい 青みの 紫 - 3 (8%)	Light Reddish Violet - 3 (33%) Light Purplish Violet - 2 (22%) Light Purplish White - 1 (11%)	赤みのうすい紫
江戸紫	あざやかな -- 紫 - 9 (24%) ふかい 赤みの 紫 - 4 (11%) さえた -- 紫 - 3 (8%)	Deep -- Purple - 2 (22%) Bright Reddish Purple-1 (11%) Light -- Purple - 1 (11%)	赤みのふかい紫
鳩羽鼠	にぶい 紫みの 灰 - 9 (24%) にぶい 青みの 灰 - 4 (11%) 暗い 紫みの 灰 - 4 (11%)	Dim -- Gray - 2 (22%) Deep Bluish Gray - 1 (11%) Dim Reddish Gray - 1 (11%)	赤みの灰紫
葡萄鼠	にぶい -- 紫 - 6 (16%) にぶい 赤みの 紫 - 3 (8%) ふかい -- 紫 - 2 (5%)	Dim -- Purple - 3 (33%) Dark -- Purple - 1 (11%) Dark Purplish Gray - 1 (11%)	赤みの灰紫
蒲萄	にぶい 赤みの 紫 - 5 (14%) 暗い 赤みの 紫 - 4 (11%) あざやかな -- 紫 - 2 (5%)	Dim -- Purple - 2 (22%) Dim Purplish Gray - 2 (22%) Dim Purplish -- - 1 (11%)	赤みのふかい紫
藤煤竹	暗い 青みの 紫 - 5 (14%) ふかい 赤みの 紫 - 4 (11%) 暗い 赤みの 紫 - 4 (11%)	Dark -- Purple - 2 (22%) Dark Purplish Red - 1 (11%) Dark Purplish -- - 1 (11%)	赤みの暗い灰紫
牡丹	あざやかな 赤みの 紫- 12(32%) あざやかな -- 紫 - 4 (11%) あざやかな 紫みの 赤-4 (11%)	Bright -- Red - 2 (22%) Bright Reddish Violet -2 (22%) Deep Bluish Red - 1 (11%)	あざやかな赤紫
梅紫	にぶい 赤みの 紫 - 8 (22%) うすい 赤みの 紫 - 6 (16%) うすい -- 紫 - 4 (11%)	Dim Reddish Violet - 2 (22%) Dim Bluish Violet - 2 (22%) Dim Purplish Violet - 1 (11%)	にぶい赤紫
似せ紫	あざやかな -- 紫 - 6 (16%) 暗い 赤みの 紫 - 4 (11%) あざやかな 赤みの 紫 - 4(11%)	Deep -- Purple - 3 (33%) Dark Reddish Purple - 1 (11%) Dark -- Purple - 1 (11%)	暗い赤紫
紫鳶	にぶい 赤みの 灰 - 5 (14%) にぶい 紫みの 灰 - 3 (8%) 暗い 紫みの 灰 - 3 (8%)	Dim -- Gray - 2 (22%) Dark Bluish Gray - 1 (11%) Dim Reddish Gray - 1 (11%)	暗い灰赤紫

蘇芳	あざやかな 赤みの 紫 - 9(24%) あざやかな 紫みの 赤 - 6(16%) さえた 赤みの 紫 - 4 (11%)	Bright -- Red - 2 (22%) Light -- Red - 1 (11%) Bright Purplish Red - 1 (11%)	赤みのふかい赤紫
桑染	ふかい 赤みの 紫 - 8 (22%) にぶい 赤みの 紫 - 6 (16%) ふかい -- 紫 - 6 (16%)	Dim -- Purple - 2 (22%) Deep Reddish Purple - 1 (11%) Dark -- Purple - 1 (11%)	赤みの暗い赤紫

5.4. 考察

5.4.1. 日本人の回答

< JIS 一般色名とほとんど一致，あるいは共通点が多い >

- ・ 藤色 「うすい」「青」「紫」に共通性がある。JIS でのカテゴリーは「青紫」であるが，回答の「紫みの青」はそれに近い表現だと考えられる。
- ・ 二藍 「にぶい」「紫みの」「青紫」など殆ど一致していると言える。
- ・ 桔梗色 「青みの」「にぶい」「青紫」など殆ど一致していると言える。
- ・ 薄色 第一位の回答が「うすい紫」と完全に一致している。
- ・ 紫 第一位の回答が「ふかい紫」と完全に一致している。
- ・ 紅藤 「うすい」「赤みの」「紫」が共通している。
- ・ 牡丹 「あざやかな」「赤」「紫」に共通点がある。JIS では「赤紫」のカテゴリーだが，回答では「赤みの紫」と「紫みの赤」の両者が見られた。
- ・ 梅紫 「にぶい」「赤」「紫」に共通点がある。牡丹と同様，「赤みの紫」と「紫みの赤」という回答が見られた。
- ・ 紅碧 「うすい」「紫みの」「青」に共通点が見られる。JIS で「青紫」のカテゴリーであるが，回答では「青」や「灰」とする人が多かった。
- ・ 菖蒲色 「赤みの」「紫」に共通点があった。JIS では「さえた」としているのに対し，回答では「あざやかな」という表現が多かった。
- ・ 江戸紫 第二位の回答と「ふかい」「赤みの」「紫」が一致している。
- ・ 似せ紫 「暗い」「赤」「紫」に共通点が見られる。牡丹や，梅紫のように「紫みの赤」とするものはいなかった。

< JIS 一般色名と異なるもの >

- 瑠璃色 第三位に「緑みの」という表現がある

瑠璃紺	「さえた青紫」に対し。「にぶい青」「緑みの青」など
紺青色	瑠璃紺と同じく、「青紫」というより、「緑みの青」ととらえられている。また、「うすい青」や「にぶい緑みの青」など回答にばらつきが見られる。
紅掛花色	「さえた」「にぶい」「あざやかな」など、回答にばらつきが見られる。
堇色	「にぶい紫」に対し、「あざやかな紫」「さえた紫」など、彩度を表すことばが正反対である。

5.4.3. 英語話者の回答

英語話者は人数が少ないために回答にばらつきが多いのも否めないが、全体的にみて、彩度や明度を表す言葉は日本人の回答とかなりの共通性がある。しかし、英語話者の回答に特徴的なのは、violet と purple が混合して見られることである。JIS 一般色名と日本人の調査では「紫」となっている色の範囲の中に、たびたび violet が登場している。これは、前述のとおり、英語話者にとって violet と purple の区別は、個人の認識によってばらつきがあることが理由のひとつとして挙げられる。

5.4.4. violet は何色か

調査結果から、「藤色」や「薄色」「半色」「紅藤」などに violet との回答がよく見られることが分かる。これらの色に共通しているのは、いずれも薄いトーンの紫ということである。また「梅紫」にも violet の回答が見られるが、この色も薄いトーンの赤紫である。一方、violet の和名とされる「堇色」を violet と表現する人はいなかった。これらのことから、現代の英語話者にとって violet は「堇色」「青みがかった紫」というよりも、「薄い紫」を表す色と考えられる。もちろん、英語話者の調査人数が少ないためこの結論は断定できるものではないかもしれないが、今までの文献での定義から violet に対して抱いていたイメージとは違った結果が出たことはこの調査の価値を表すものであると考える。

6. おわりに

古代と同じ色が再現不可能であることは仕方のないことかもしれないが、伝統色名が廃れその色がほかの色と区別されなくなれば、その色自体の持つ概念も消えてしまう。かつての日本では選ばれた者にしか許されないほど品位をたたえた色であった紫が、時

代の流れによって切り捨てられてしまっているのは残念なことである。しかし、今の日本人の生活が日本の伝統からは殆ど離れてしまっている現状を見ると、日本の色彩への認識が薄れてきているのも不思議ではない。一方、「紫」という色だけを見れば、古代は品位を表す色、江戸時代以降は流行色として人々に愛されてきた。しかし、近江（2008）の調査※からも分かるとおり、今の日本人にもその心は変わらず残っている。そして、かつて親しまれてきた伝統色名は「パープル」や「ヴァイオレット」などの外来色名に取って代わられ、紫はこれからも日本人を魅了し続けていくと言えるだろう。

注

※ 近江源太郎（2008）『色の名前に心を読む：色名学入門』研究社 p.70より。

参考文献

- アイザック・ニュートン（1983）鳥尾永康訳『光学』岩波文庫
赤池鉄士（1981）『英語色彩の文化誌』研究社
近江源太郎（2008）『色の名前に心を読む：色名学入門』研究社
小西友七、南出康世編集主幹（2001）『ジーニアス英和辞典・第3版』大修館
財団法人日本色彩研究所（1993）『色彩ワンポイント10・色名とそのエピソード』日本規格協会
ジョン・R．テイラー（2008）辻幸夫、鍋島弘治朗、篠原俊吾、菅井三実訳『認知言語学のための14章 第三版』紀伊國屋書店
鈴木孝夫（1999）『日本語と外国語』岩波書店
中江克己（2007）『歴史にみる「日本の色」』PHP 研究所
長崎盛輝（2006）『新版日本の伝統色—その色名と色調—』青幻舎
福田邦夫（1999）『色の名前はどこからきたか—その意味と文化』青娥書房
福田邦夫（2005）『すぐわかる日本の伝統色』東京美術
松村明編（2006）『大辞林・第3版』三省堂

Berlin, B. and Kay, P. (1969). *Basic Color Terms*, University of California Press.

Merriam-Webster (2004), *The Merriam-Webster Dictionary*, Merriam Webster Mass Market; New Rev.

Oxford English Dictionary Online

<http://www.oed.com/>

Abstract

This article focuses on traditional Japanese color terms and is an inquiry into the color 'purple' and related color terms as used in Japan. Although purple is an intermediate color, it has held an important meaning in Japan since ancient times, and traditionally unique names were assigned to each variation of the color purple. In this thesis, 35 traditional colors classified as variations of purple were selected, and research was done to determine how present day Japanese people would describe these colors.

The results of this research have revealed that the traditional Japanese categorization of these colors differs from the way in which present day Japanese categorize these colors. Even colors which at one time were clearly identified and classified together are now described in a variety of differing terms by modern Japanese people and are no longer recognized as unique colors in their own right. Additionally, color tones which were considered bright in ancient times tend to be described as darker colors by present-day people.

Furthermore, an inquiry was also made into the difference between color categorization in Japanese and English by comparing traditional Japanese color terms with English color terms. Among these, the terms 'purple' and 'violet,' which are frequently confused when translated into Japanese, were analyzed by way of a survey presented to English speakers. From the results of this survey, English speakers used the term 'purple' to describe colors in the range traditionally referred to as 'murasaki' (purple) to 'aka-murasaki' (reddish purple) in Japanese, while the term 'violet' was used by English speakers to describe the color traditionally referred to as 'usui murasaki' (light purple) in Japanese, which is in contrast to violet's definition as 'sumire-iro' or 'aomigakatta murasaki' in dictionaries and various literary sources. Although Japan's traditional color terms are falling out of use due to the growth of civilization and the influence of foreign cultures, by inquiring into the color known as 'murasaki' (purple) from a variety of angles, I believe a definition of and an understanding of this color can be reached systematically.